

■行財政改革推進に向け 委員会が答申

市行政改革推進委員会（降旗 富雄会長）は12月25日、8月に諮問を受けた第3次行財政改革大綱の策定について検討結果をまとめ、宮澤市長に答申しました。

今回の答申では、少子高齢・人口減少時代が到来し、30年・50年先を見据えた上で発展・持続可能なまちづくりについて提言しています。

具体的な内容として、まちづくりについては、人口減少社会を迎え、定住促進や自主財源の確保など戦略的な公共経営を求めています。市の内部改革については、健全財政の維持と併せ、不要な公共施設の廃止等による維持費等の削減や、新本庁舎へ機能の集約後を見据えた職員の資質向上や意識改革などを求めています。また、市民との協働

推進に向け、区の活動充実や加え、自治基本条例の制定なども提案しています。

宮澤市長は「市制施行10周年を迎え、より結果が求められる。職員一丸となって取り組むたい」と話しました。

市では答申を受け、本年3月までに第3次行財政改革大綱（平成27～31年度）を策定する予定です。



答申内容を説明する降旗会長（中央）

■市の入札制度改革へ 検討委員会が提言書提出

市入札制度検討委員会（笠井明会長）は12月25日、市の入札制度改革への提言書を宮澤市長に提出しました。

市の建設工事の入札で、市の予定価格を上回る入札不落や応札者がいない入札不調が続いたり、市職員による入札情報漏えい事件が起きたりしたことから、市が委員会に、新たな入札制度について検討を求めたもの



宮澤市長に提言書を手渡す笠井会長（左）

です。

具体的な内容として、不落・不調を防ぐため、入札しやすいよう、工事発注時期の平準化を図る調整部署を設けることや資材等の最新の市場価格を設計の積算単価に反映することなどを提案しています。また、談合防止に向け、職員教育など積極的に行うよう求めています。

提言を受け、宮澤市長は「不

落・不調で事業が遅れ、市民サービス低下にならないよう、解消に向け提言を生かしていきたい」と話しました。

市では、提言内容を基に、来年度以降、入札制度改革を進めていきます。

■住み良い安曇野を目指して 人権のつどい開催

市と市教育委員会では、人権について考え、意識を高める機会として12月7日、「人権のつどい講演会」を堀金総合体育館サブアリーナで開催しました。

当日は、約210人が参加。第1部の講演会では、市民大学講座特別編としてテレビなどで活躍する宮川俊二さんが「キャスターから見た人権」と題し講演しました。

宮川さんは、過剰報道や特殊詐欺を事例に権利侵害について説明。互いを思いやる感覚について「身近な家族や地域の結びつきの中から養っていきましょう」と会場に呼び掛けました。

また、第2部では、花を育てることを通じ思いやりの心を育てる「人権の花」運動について、穂高西小と明南小の皆さんによる活動発表や、全国中学生人権



作文コンテスト入賞者に賞状が手渡された

作文コンテストの安曇野地区入賞者の表彰式が行われました。このうち表彰式では、受賞者11人を代表して林里音さん（穂高東中3年）と今野凌佑さん（豊科南中3年）が転校生や友人との関わりを通して感じたことをまとめた作文を発表し、人権の大切さを訴えました。

■市内初のラウンドアバウト交差点 工事現場説明会開催

市が整備を進めるラウンドアバウト交差点（信号機のない円形交差点）の工事現場説明会を12月14日、豊科地域本村区と堀金地域中堀区の境にある変則5差路の交差点で行いました。

この説明会は、ラウンドアバウト交差点の概要や通行方法などを市民の皆さんに知ってもらおうと開催したもので、当日は、市民など約30人が参加しま

した。

ラウンドアバウト交差点は、交差点内の環状道路を進入した車両が時計回りに進むことで、渋滞緩和や事故防止に役立つとされ、県内で5カ所目、市内では初めて整備されます。

今回の整備により、堀金地域と豊科地域間のアクセス向上や、近接するJR大糸線南豊科駅利用者の利便性向上などへの

効果が期待されます。

参加した高野慎一さん（穂高有明）は「全国的に珍しい交差点と聞きました。完成後は、市の町並みの目印のひとつになるといいですね」と話しました。

市では、工事完了前に再度、現場説明会を行う予定です。詳細は今後発行の広報あづみのなどでお知らせします。



交差点の概要を参加者に説明する様子